

2023年度

科目名称	高齢者理学療法学
授業コード	AD354
英語名称	
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この授業では生涯発達の視点から老年期についての理解を深めると同時に、加齢障害の一般原理および特徴を座学と演習を通じて学び、高齢者の理学療法を考え実践できる知識と能力を養う。また本科目は加齢障害の理学療法に関して豊富な実務経験を有す教員による実践科目として、高齢者に対する理学療法の実施に欠かせない知識、技術、視点をICFを用いながら包摂的に理解できるように進めていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	在宅における訪問リハや高齢者施設など介護保険分野における理学療法に従事した経験を持つ教員（理学療法士）が、その経験を活かして、高齢者を取り巻く社会保障の国際比較から高齢者に特徴的な慢性疾患の身体評価及び理学療法、在宅復帰に向けた環境整備の在り方などについて実例を交えて分かりやすく講義する。 ・渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験）
到達目標	カリキュラムポリシーにある「基礎的な理学療法の知識をもとに発展的な理学療法の知識や技能を習得する」を実現するため以下の到達目標を設定した。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 1) 加齢障害の特性および障害の理解に基づき、高齢者の理学療法に関する適切な評価とプログラムの説明ができる。 2) ICFを用いて対象者の取り巻く状況を説明できる。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 3) 加齢障害に対する理学療法士の役割や介入に際するリスクを認識し、実践できる。
計画・内容	1) オリエンテーション総論 脳血管障害のリハビリテーション(高次脳機能障害/認知症) 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 2) 脳血管障害患者の起居動作介助 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 3) 高齢者の身体特性 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 4) 褥瘡予防のポジショニング/ラップ療法紹介 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 5) 高齢者の転倒と骨折 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる 6) 高齢者の身体機能/排出障害 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>7) 高齢者のバランス評価と訓練 予習：該当項目について発表準備をする 復習：講義内容をまとめる</p> <p>8) 高齢者のリハビリテーション まとめ 予習：発表内容についてまとめておく 復習：講義内容をまとめる</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>この講義では高齢者の理学療法を実践していくうえで必要となる知識や技術を学んでいく。また加齢現象について考察するグループワークと発表に取り組む。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を対話形式で行い学生に興味・関心を持たせる。 ・理論と実践をバランスよく実施し、理論の後に演習を実施する。 ・小テストでは学生同士で調べ学び合う機会をつくり知識の定着を図る。
<p>授業時間外の学修</p>	<p>予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。(1時間) 復習：学習した内容について知識の整理を図ること。(1時間) 疑問点などがあれば担当教員に相談すること。</p> <p>理学療法の対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>各回の課題の提出率・内容(20%)、発表・レポート課題(80%)により評価する。</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>提出したレポートに対してフィードバックを行う。また授業に対するフィードバックを適宜行い、講義内容に盛り込んでいく。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>Campus Squareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>各回の復習を良く行うこと</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>授業の進め方 オンライン（ZOOM）にて実施する。一方向性とならないよう学生との対話やディスカッション、グループセッションを利用したインタラクションを積極的に取り入れる。</p> <p>成績評価方法と基準 対面と同様、各回の課題の提出率・内容(20%)、発表・レポート課題(80%)により評価する。</p>